

第2章 吉野川の姿の移り変わり

ポイント：

現在の吉野川の姿は、私たちが安全に暮らせるように、長年にわたりさまざまな工夫をした結果を反映しています。吉野川の自然環境は、私たちの暮らしとともに、その姿を変えてきました。

2 - 1 小規模な堤防

両岸に連続した堤防を築くことができなかつた時代には、小規模な堤防を築いていました。小規模な堤防では、吉野川の流れを制御することはできません。吉野川の流路は、洪水によってしばしば移動しました。

吉野川の旧堤は小規模で、今みられるような両岸に連続した堤防のあとはみあたりません。吉野川の大氾濫を防ぎ得るだけの大規模な堤防を築くことは、江戸時代までは経済的にも技術的にも困難な状況でした。

吉野川には、今も明治以前に築かれた小規模な堤防が残っています。



出典：「四国三郎物語」徳島工事事務所

藤森堤

藤森堤（小規模な石巻堤）は、国道192号線沿いの道の駅「貞光ゆうゆう館」の西側に、新堤に並行する形で残っています。明暦2年（1656）に3年の歳月をかけて築かれた堤防です。史料で確認でき、かつ現存する堤防としては、徳島県内で一番古いものとされています。



出典：「四国三郎物語」徳島工事事務所

蓬庵堤

蓬庵堤は、天正十四年（1586）に徳島藩が鮎喰川の右岸に築いた堤防です。蓬庵堤は、県道神山鮎喰線の僧都のバス停あたりから下流に向かって残っています。現在はほとんどが道路になっています。



出典：「四国三郎物語」徳島工事事務所

西条渡し北の^{かきよせてい}掻寄堤

西条渡し北の掻寄堤は、藩政時代に築かれたものです。高さ4メートルほどの盛り土が、掻寄堤の名残をとどめています。



出典：「四国三郎物語」徳島工事事務所

六条堤

六条堤は、上板町の六条大橋北詰めから西分神社の前を通過して、北西に約1 kmのところにあります。藩政期につくられた民有堤です。現在はその上を六条・八坂線の町道が走っています。この堤は、下流部の村々を守る重要な施設でした。



出典：「四国三郎物語」徳島工事事務所

伊沢市堤

伊沢市堤は阿波町伊沢市にあります。「阿波町史」によれば、総延長約571 m、高さ約1.8～4.5 mの堤防です。